

よみがえれ地方語

◎ 3 ◎

船津 好明

沖縄文字と発音

①

◆音韻記号、国際音声記号、用例は、国立国語研究所編沖縄語辞典による◆

対照国語文字	沖縄文字
と	と
音韻記号 = tu 国際音声記号 = [tu]	

対照国語文字	沖縄文字
ど	ど
音韻記号 = du 国際音声記号 = [du]	

対照国語文字	沖縄文字
て	て
音韻記号 = ti 国際音声記号 = [ti]	

対照国語文字	沖縄文字
で	で
音韻記号 = di 国際音声記号 = [di]	

発想——国語文字「と」と「う」を組み合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

発想——国語文字「と」と「ど」の表記上の関連に習い、「と」に濁点を打ったもの。

発想——国語文字「て」と「い」を組み合わせた表記法が従来散見されるので、これに配慮し、これらを結合させたもの。

発想——国語文字「て」と「で」の表記上の関連に習い、「て」に濁点を打ったもの。

用例——とい(鳥)、うち(音)、むっちゃん(最も)、みーと(夫婦)

用例——とし(友達)、同士(どーとー(胴体)、やど(宿))

用例——てーち(一つ)、てーだ(太陽)、てん(天)、たてむん(建物)

用例——てきあー(できる)、てー才、てーふ(筆)、てーどー(のど)

対照例——とーふ(豆腐)、とーぬちん(とーもろこし)

対照例——どーぐ(道具)、まんどーん(たくさんある)

対照例——てーく(太鼓)、てーしち(大切)、だてーん(大いに)

対照例——てーじ(大変)、てーち(兄弟)

「と」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、国語で「う」という要領で「と」というようにすると、「と」というようにするのと、「と」の発音に近くなる。なお、英語の前置詞 [to:tu:] の発声要領(ただし、母音は伸ばさない)と同じと考えよう。

「ど」の正しい発声への一つの接近法——上下の唇をすぼめて尖らせ、国語で「う」という要領で「ど」というようにすると、「ど」というようにするのと、「ど」の発音に近くなる。なお、英語の動詞 [dɒ:du:] の発声要領(ただし、母音は伸ばさない)と同じと考えよう。

「て」の正しい発声への一つの接近法——両ほおを引き、上下の唇の間を細長く広げ、国語で「い」という要領で「て」というようにすると、「て」というようにするのと、「て」の発音に近くなる。なお、英語の tea [ti:] の発声要領(ただし、母音は伸ばさない)と同じと考えよう。

「で」の正しい発声への一つの接近法——両ほおを引き、上下の唇の間を細長く広げ、国語で「い」という要領で「で」というようにすると、「で」の発音に近くなる。なお、英語の disk という時の di の音と同じと考えよう。

(沖縄語研究者)